

「本庄市観光振興計画（案）」に対する意見と市の考え方

「本庄市観光振興計画（案）」に対するパブリックコメントを実施したところ、貴重なご意見をいただきありがとうございました。提出された意見と市の考え方を以下のとおり公表いたします。

1. 意見等の募集期間：平成30年2月5日（月）～平成30年3月6日（火）
2. 意見等の受付人数：2人 2件（提出方法の内訳：電子メール1人、持参1人）
3. 提出された意見等および市の考え方

	提出された意見	提出された意見に対する市の考え方
①	<p>小生もアップル社のスマートフォンを使用し始め、現在で8年程になりますが、『0495』の市外局番からの着信時に付随して『秋田県由利本荘市』と表示され、同社の日本支社サポートにこの旨を報告してはや2年ほど経過しますが、未だ解決しておりません。小生が子供の頃より当時の大人達は、『ほんじょう』と言えば『(由利) 本荘市』という風潮は確かにあったかと記憶しております。</p> <p>そこで、本庄市の更なるブランド化の基礎として、『武蔵本庄市』というネーミングの採用をご検討して頂きたくご提案申し上げます。『武蔵国最北端』の重要拠点として古来より重要視されて来た『武蔵本庄市』。様々なイベントや催事・特産物等にこの『武蔵本庄市』または『武蔵本庄』と称する事で、古来より継承される伝統と新たな伝統の融和を計る礎になるのではと考えました。</p> <p>昨年末仕事で京都に訪れた際に、意外だったのは京都の人は金閣寺など他県民に有名な場所には行ったことがないという方は多いんだそうです。もしかしたら、我々本庄市民も地元の知らない事が多いのかもしれない</p>	<p>本市の魅力の再発見、知名度向上につきましては、本計画の別冊「観光振興策」を始め、諸施策を積極的に取り組むことにより推進してまいります。</p>

	<p>(私自身はそうです)。もしかしたら、魅力的な再発見や新事実がまだまだあるかと思います。そのような魅力を広く市外の方に知ってもらう為に、『ほんじょう』と言えば『武蔵本庄（市）』と認知して頂き、現状では観光資源に乏しいと思われる『本庄市』を新たな伝統と共に『武蔵本庄（市）』として発信出来ないかと考える次第です。</p>	
②	<p>P 2 1 に基本方針が示されておりますが、市民が本庄市を活性化しようと考えなければ、本庄市の魅力にも気づかないのではないのでしょうか。そして、小生には名案はありませんが観光振興にどのようにして市民を巻き込むかが大切と考えます。</p> <p>資料によりますと、本市には多くの観光資源があると記されておりますが、本庄市観光振興計画（案）は、基本計画を表したものと思います。今後は、分かりやすい具体例をあげて説明頂きますと小生のような市民は理解しやすくなると思います。</p> <p>提言から外れるかと思いますが、エリアは狭いですが地域活性化に取り組み、メディアに取り上げられる観光地となった地域の知人の話では、まずは地域住民が参加することが大事であり、そして「リピーターを作ること」が大切だとも言っております。成功するには住民から信頼される強いリーダーがいる事があると小生は強く感じました。</p>	<p>本計画の推進に向けて、具体的な取組案については「観光振興策」として別冊にて示しております。</p> <p>また、市民参加につきましては、計画の基本戦略におきまして、市民協働による推進体制の構築と連携強化として、市民が主役となる観光推進体制の構築や受入体制を整備してまいります。</p>